

脱走米兵を泊めた頃 ベトナム戦争時40年 大阪の男性が映像公開

朝日新聞 2015年5月7日

ベトナム戦争時に在日米軍基地から逃げた米兵を映像ジャーナリストの小山紳人こやまおさひとさん（73）＝大阪市＝がかくまい、その姿を撮影していた。ベトナム戦争終結から今年で40年。小山さんは9日、秘密にしてきた映像を大阪市内で上映し、当時のことを語る。

「脱走米兵をかくまってほしい」。大阪の放送局に勤めていた小山さんは1968年3月、信頼を寄せていた先輩から頼まれた。その約3年前から、日本では米軍による北ベトナム爆撃で多くの市民が犠牲になったのをきっかけに反戦機運が高まっていた。

京都市内の小山さんの実家に来た青年米兵は19歳。「キャル」と名乗った。すぐになじみ、小山さんが16ミリカメラを回しても拒まなかった。約190センチの長身を折り曲げて狭い浴槽につかったり、はちまきを巻いて日本酒を飲んだり、母親のつくったすき焼きをフォークでぱくぱくと食べたり……。映像には、ベトナムで海軍兵として戦ったというキャルがくつろぐ姿が残っている。

「すぐ隣の仲間が首を撃たれて死にました」「家族は衝撃を受けるだろうが、愚かな戦争をやめさせるために脱走しました」。小山さんはキャルが反戦を訴える声明を読みあげる様子もとらえていた。

小山さんがキャルを実家にかくまったのは3泊で、関係者の車で別の支援者宅に移った。小山さんは「ベトナムに平和を！市民連合（ベ平連）」の関係者が入手した米公文書などからキャルのその後を知った。キャルは関西の14カ所を転々とした末、68年4月に北海道・根室からソ連（当時）に密航していたという。

ベトナム戦争中、在日米軍基地から脱走し、ソ連に渡った米兵は報道されただけで10人以上。スウェーデンに渡った後に家族の説得で米国に戻ったというキャルの消息を調べている小山さん。「当時はまだ、日本の戦争の記憶が強く残っていた。『もう戦争は嫌だ』という一心で多くの市民が脱走兵の訴えに共感し、支えた」と振り返る。

キャルの映像の上映と小山さんの講演は9日午後2時から大阪市此花区西九条6丁目の「クレオ大阪西」で。資料代1200円。問い合わせは主催団体の「新聞うずみ火」（06・6375・5561）へ。（中野晃）